

銅賞 菅原 仁美君
北海道工業大学空間創造部建築学科 水の郷

建築というものは最初この作品のようにぼんやりとしたイメージで白濁した気憶から晩起される。それは、きっと絵本のような物と同位なのかもしれない。僕はこのような表現がとっても好きだし、実際、美しいとも思う。出しゃばっていない建築表現にも好感がもてる。でも、多分"金"になれなかった理由は、建築へのアプローチの仕方（前菜といってもいいだろう）が単純だったせいかもしれない。表現力は素晴らしいのだけれど、肝心の建築がこれでいいのだろうか。とっても何か、安易であるような気がしてならない。残念だが、決して埋没しているようには見えなかった。これだけの表現では、我々を納得させることができない。でも、やっぱり好き。

（文責：中山 眞琴）